

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人小樽商科大学

1 全体評価

小樽商科大学は、建学以来の自由な学風と実学重視の精神を継承・発展させ、質の高い研究を維持し、社会の各分野において指導的役割を果たすことのできる品格ある人材を育成することを目指している。第3期中期目標期間においては、グローバル時代の地域マネジメント拠点としての社会的役割を果たすため、「アクティブラーニングの深化・充実」「新たな教育課程の構築」「全学的な地域課題研究の推進」「文理融合型ビジネス開発プラットフォームの構築」「産学官連携・他大学連携による地域人材育成」を推進し、北海道経済の発展に寄与する「グローバル人材」を育成することを基本的な目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、機動的な組織運営や教育プロジェクトを通じた地域貢献に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- グローカル戦略推進センターを本格稼働し、これまで蓄積してきた実践的な教育方法、国際交流、産学官連携ネットワークを相互に連携・融合させ、拡大的効果を図ることにより、「北海道経済の発展に寄与するグローバル人材」の育成というビジョンの実現に向けた戦略の推進と全学的な教育研究支援を一体的に担う新たな組織を構築している。また、グローバル戦略推進センターの教育支援部門及び産学官連携推進部門を中心として、企業、地方公共団体、経済団体等の学外機関との教育連携を推進した結果、外部連携機関数は50機関となっている。（ユニット「グローバル人材育成のため、海外及び国内の教育研究資源を活用した新たな教育課程の構築」に関する取組）
- 文理融合型大学間連携事業として実施している帯広畜産大学との共同研究を推進し、共同研究の成果を周知しているほか、この文理融合型大学連携事業をきっかけとして、清水町主催、帯広畜産大学等との共催による、清水町の農業経営力の向上と次世代を担う農業人材の育成を図るための「清水町アグリビジネススクール」等に教員を派遣するなど、地域連携に取り組んでいる。また、北海道の企業・自治体・起業志望者等から37件のビジネス相談への対応を行っているほか、連携団体数は62団体、シンポジウム・セミナー・地域人材向け教育プログラムの開催数は17件となっている。（ユニット「北海道経済の活性化を目的とした産学連携及び大学連携に向けたプラットフォームの形成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化				○		
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項中11事項が「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項)

年度計画【28-1】については、法人が掲げる目標が達成されておらず、また、達成されなかったことについて勘案すべき事項が認められないことから、「年度計画を十分には実施していない」と判断した。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学長のリーダーシップによる機動的な組織運営

入学試験制度改革を推進するための新たな組織設置について、平成28年4月開催の大学改革推進室会議における提言を踏まえ、将来構想委員会及び専門部会において企画立案を実施し、7月にはアドミッションセンターの設置を実現するなど、学長のリーダーシップの下それぞれの組織が連携し、機動力のある組織運営が実施されている。

平成28年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

○ 年度計画の未達成

「年俸制導入目標人数12名を達成する。」(年度計画【28-1】)については、在職者を対象とした学内募集や新規採用予定者に対する周知・個別説明等を実施しているものの、平成28年度における年俸制適用教員は10名にとどまっていることから、年度計画を十分には実施していないものと認められる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学生との連携による戦略的な広報活動

学生ベンチャー企業との連携により、高校生267名を対象に、大学を選ぶ際に重視する点や大学から発信してほしい情報等に関するアンケートを実施し、アンケート結果に基づき「商大生から高校生に送る商大情報サイト」としてスマートフォン向けウェブサイトである「OUC Navi high school」を作成している。当該ウェブサイトにおいては、「オープンキャンパス情報」や、学生による「就活情報」、「入試情報」、「留学情報」、「学生生活に関する情報」等を発信するなど、戦略的な広報活動に取り組んでいる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ アクティブラーニングの更なる活用促進

これまで開発・導入してきた多様なアクティブラーニング活用方法を学内外で共有し、「小樽商科大学アクティブラーニングメソッド事例」として情報発信するため、誰でも同じクオリティのアクティブラーニング授業が提供できるよう、教育手法を体系的に取りまとめ、共有可能な形式にする方法について検討を進めている。また、スマートフォンなど学生所有のICT機器等にて専用アプリケーションを使用した初年次教育向けのアクティブラーニングの手法を開発するなど、アクティブラーニングの更なる活用に向けて取り組んでいる。

○ 教育プロジェクトを通じた地域貢献

地域志向教育プロジェクト「外国語表示の拡大等を通じた、おたる水族館の利便性向上のための取組み」では、留学生を中心に、英語、中国語、韓国語の館内の掲示物の翻訳やパンフレットの作成を行っているほか、4か国語による館内放送を録音・編集し、水族館にて活用されている。また、地域志向教育プロジェクト「旧国鉄手宮線で巡る外国人観光客のための小樽散策マップ作成プロジェクト」では、小樽市と連携して学生が観光マップを作成し、外国人観光客等に配布している。

○ 教育資源活用のための外部機関との連携拡充

地域をはじめとする学外教育資源を活用した教育を実施するために外部連携機関との連携を拡充しており、グローバル戦略推進センターの教育支援部門及び産学官連携推進部門を中心に、企業、地方公共団体、経済団体等の学外機関との教育連携の推進等に取り組んだ結果、外部連携機関数は50機関（対前年度比1.9倍）となっている。